なるほど！ザ・ファンド Q&A Vol.292

情報提供資料
2026年10月20日

Q. わたしたちの年金積立金はどのように運用されているの？

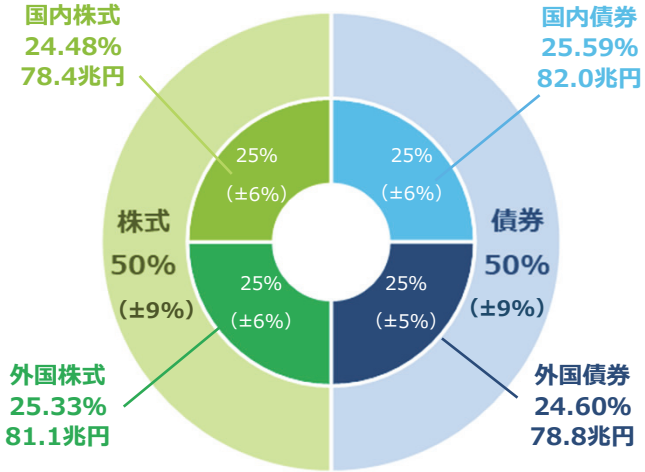
A. 長期的観点に基づいて複数の資産に投資することで、価格変動リスクを低減させて好リターンをめざす「分散投資」を基本として運用をされています。

◆ 日本の公的年金（厚生年金保険と国民年金）の運用はGPIF（年金積立金管理運用独立行政法人）が担っています。その運用資産額は約318兆円（2026年6月末現在）にのぼり、「世界最大級の年金基金」となっています。GPIFは、**インフレやデフレをはじめとする様々な運用環境の下で、長期にわたり安全かつ効率的に年金積立金を運用するため、複数の資産を組み合わせて運用する「分散投資」**を行っています。

◆ GPIFでは基本となる資産構成割合（以下、「基本ポートフォリオ」）を定めています。かつては国内債券中心の運用となっていましたが、2014年の基本ポートフォリオ見直し時に、国内債券の比率を大幅に減らしました。さらに、2020年の基本ポートフォリオ見直しでは、国内金利の低下から国内債券の割合を減らした一方、相対的に金利が高い外国債券の割合を増やしました。これにより、債券と株式の比率は概ね50%ずつ、また国内資産と外国資産の比率も概ね50%ずつとなっています。2025年3月に行われた2025年度の基本ポートフォリオ見直しでは、**資産構成割合の変更はなく、乖離許容幅について国内株式が±2%、その他資産が±1%小さく**なりました。

◆ 2026年度の運用実績（収益額）は、国内外の株式市場が上昇したことなどから、**第1四半期までで約24.1兆円**となりました。**2001年度（市場運用開始）以降の累積収益額は約221.0兆円**にのぼっています。

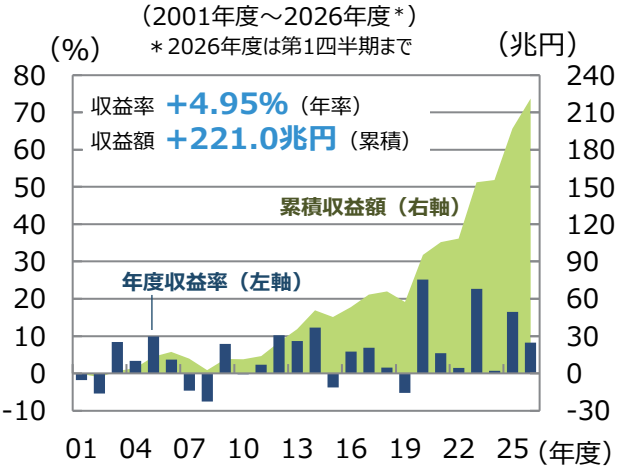
GPIFのポートフォリオ



（注1）円グラフ内は2025年4月以降の基本ポートフォリオ。カッコ内はかい離許容幅。
（注2）各資産の比率および残高は2026年6月末現在。年金特別会計で管理する積立金を含む。

GPIFの運用実績

各年度の収益率および累積収益額の推移



（注1）収益率および収益額は運用手数料等控除前。
（注2）累積収益額は2001年度を起点として算出。

（出所）GPIFの公表資料を基に三井住友DSアセットマネジメント作成
※上記は過去の実績であり、今後の市場環境を示唆あるいは保証するものではありません。
※この資料の最終ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。

【重要な注意事項】
■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。

＜ご留意いただきたい点＞
■この資料は具体的な商品をご説明するものではないため詳細を記載しておりませんが、元本保証のないリスク性商品のご購入やご売却、保有にあたっては、手数料等をご負担いただきます。■リスク性商品には、各種相場環境等の変動により、投資した資産の価値が投資元本を割り込む等のリスクがあります。■リスク性商品を中途解約する場合は、ご購入時の条件が適用されず不利益となる場合があります。■くわしくは、三井住友銀行店頭の各商品の説明書等を必ずご覧ください。

SMBC 三井住友銀行
株式会社三井住友銀行
登録金融機関 関東財務局長（登金）第54号
加入協会／日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会